

伝統構法・建築職人の技、無形遺産に

以前、新聞に掲載されていた「建築職人の技、無形遺産に」という記事のことが気になってネットで検索してみました。

有名な社寺から日本の美しい町並みや原風景をかたちづくる民家や町家まで、日本の伝統建築はみな「伝統構法」でできています。世界遺産登録される伝統建築物が年々増える一方で、それを作る技術である「伝統構法」は、効率最優先の価値観や日本人の生活スタイルの変化などにより、存亡の危機に瀕しています。「日本の宝」を作る技術と生業とを未来につなげるために「伝統構法をユネスコ無形文化遺産に！」という目標を掲げました。と[伝統木造技術文化遺産準備会]のHPに掲載されていました。



市指定 有形文化財旧坂東家(さいたま市) 野外博物館。
江戸時代末期の安政4年の建立で式台を持つ格式の
高い住宅です。



長屋門の入口部、天井周りの梁の構成美

「建築職人の技」は、いま瀕死の状態といっても過言ではありません。住宅建設にあっても工業生産が主流となり工期は短く、コストダウンなどで合理化が進ん

でいます。その中で、職人技を発揮する場が減少しています。大工のカンナやノコギリを屈指する技、左官の鏝技、建具屋の木建作り、塗装屋の刷毛塗り技など今無用のもの、絶滅危惧種と揶揄している有様です。

こうした状況下で、「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録されたように「建築職人の技、無形遺産に」もユネスコ無形文化遺産に登録されることにより、社会が再認識する切っ掛けになるのではないかと思います。

この運動は、2014年末に発足。

令和元年3月末 ユネスコ事務局に提案書を再提出

令和2年10月頃 評価機関による勧告

令和2年11月頃 政府間委員会において審議・決定、という流れをを経て実現することになりそうです。



県指定 有形文化財 氷川女体神社（さいたま市）



市指定 有形文化財 中野田不動堂（さいたま市）※